

道総研・水産研究本部のホームページから、マリンネット北海道のデータベース検索^{※1}のページに入ると、北海道におけるの水産物の漁獲統計を検索・集計することができます。現在は1991年から2017年（最新年）まで検索が可能です。今回はここから入手したデータを元に、近年における北海道およびオホーツクの漁獲傾向についてまとめました。

《北海道の漁獲量の推移とオホーツク総合振興局管内の占める割合》

1991年から2017年における北海道の漁獲統計によると、1991年には226万トンの漁獲量がありましたが、その翌年には170万トンに減少しました。その後1990年代はおよそ150～170万トンの範囲にありましたが、2000年以降は150万トン、さらに2011年以降は130万トンを下回るようになり、2016年は86万トン、2017年には85万トンに減少しています。この間、オホーツク総合振興局管内の漁獲量は、1991年の21万トンから始まり、1996年の32万トン、2003年の33万トンおよび2010年の31万トンをピークに、増減を繰り返しながら2017年は18万トンとなっています。全道の漁獲量に占めるオホーツク総合振興局管内の割合を見ると、1991年の9.4%から1993年の16.7%に急激に上昇し、2001年にかけて17～19%を占めています。その後、2012年にはピークの25.0%に増加し、近年の2015～2017年は約21%前後となっています。振興局別に順位を集計したところ、オホーツク総合振興局は1991年の5位から年ごとに順位を上げ、1995年は1位となりました。その後3年間は2位でしたが、2000年から2017年の18年間にわたって1位となっています。

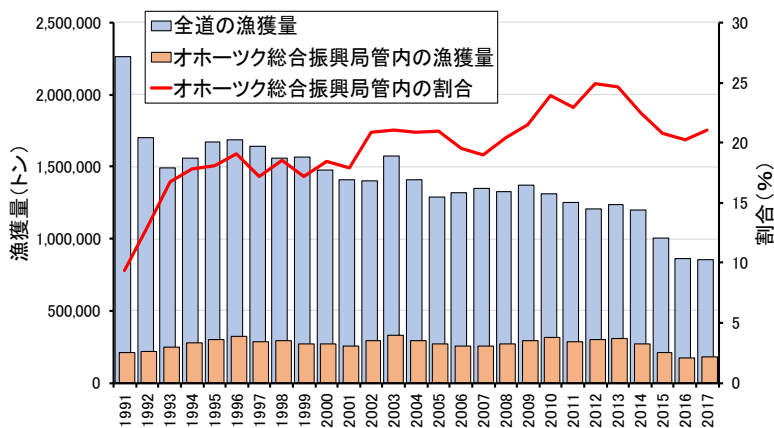


図1 北海道の漁獲量推移とオホーツク総合振興局管内の占める割合

《オホーツク総合振興局管内における漁獲傾向》^{※2}

オホーツク総合振興局管内における主要魚種の漁獲量と漁獲金額を図2にまとめました。漁獲量で最も多いのは「ほたて貝」で管内全体の55.4%（1991～2018年の平均）を占めており、増減は管内全体の変動と良く一致しています。2番目は「さけ」で同じく16.4%を占めており、増減する時期も良く似ているようにみえます。漁獲金額でも「ほたて貝」と「さけ」が1、2位を占めており、特に1991年～2005年までは「ほたて貝」が1位でしたが、2006年以降は度々順位が入れ替わっています。この2種はいずれも栽培漁業対象種であり、地球温暖化によって沿岸域の環境が変化していると言われていた昨今、環境変化を把握し対応して行くことが、本地域および北海道の漁業を支えるものと思います。

（網走水試 佐々木義隆）

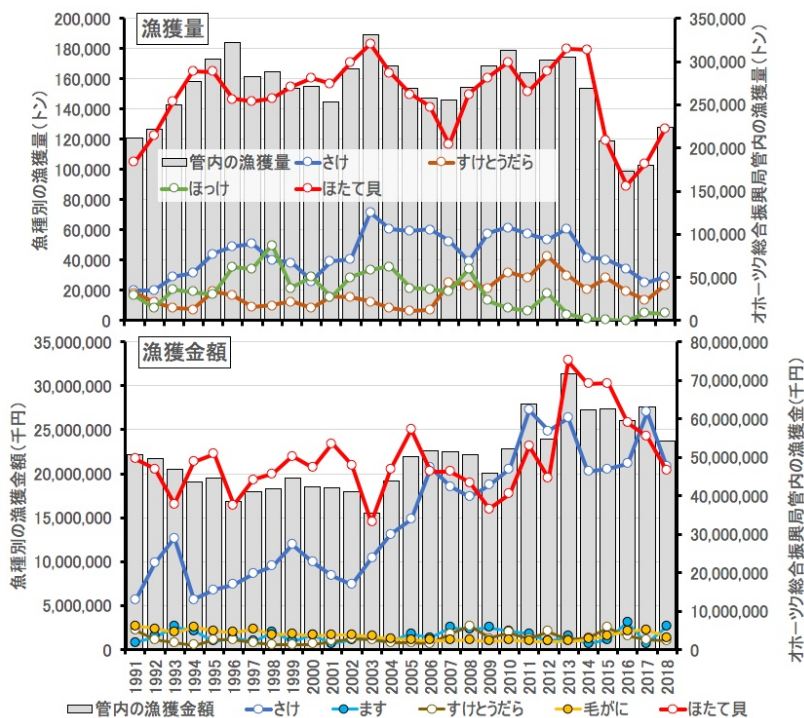


図2 オホーツク総合振興局管内における主要魚種の漁獲量と漁獲金額

※1 : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/marine/h3mfc0000000ge0.html>

※2 : 集計にはオホーツク総合振興局まとめの2018年（平成30年）の数値を加えました。本文および図中の魚種名は集計表の表記に従いました。